

第4回  
徳島県読書バリアフリー推進協議会

別冊資料

資料①	読書バリアフリー推進事業について	p 1
資料②	令和3年度事業報告	p 2
資料③	令和4年度事業計画（案）	p 8
資料④	点字図書館と公立図書館等との連携について	p 9

令和4年3月28日

徳島県教育委員会生涯学習課

## 資料① 読書バリアフリー推進事業について

### 【目的】

令和3年7月に「徳島県読書バリアフリー推進計画」を策定した。

本計画における3つの基本的な施策の方向に基づき、視覚障がい、発達障がい、知的障がい、上肢障がい等により、活字による読書や図書館利用が困難な方々の読書環境を整備・充実させることによって、障がいの有無に関わらず、全ての県民が等しく文字・活字文化の恵沢を享受できる社会の実現に向け、関係機関と連携して事業に取り組む。

### 【事業委託先】

社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団 視聴覚障がい者支援センター

### ※厚労省補助事業

「地域生活支援促進事業（地域における読書バリアフリー体制強化事業）」活用

### 【事業内容】

#### 1 アクセシブルな書籍等の充実及び製作人材の育成・確保

##### 高等学校での音訳図書製作体験

音訳図書等の製作を担うボランティアの高齢化及び新規人材の育成が課題となっていることから、高等学校放送部等において、作成したデイジー図書を視覚障がい者等に利用していただくことを目途に、音訳図書の製作体験を実施し、若年者の製作人材育成を図る。

#### 2 アクセシブルな書籍等の入手及び利用のための支援

##### 公立図書館等における読書支援機器・バリアフリー図書の利用促進

視覚障がい者等の活字による読書が困難な方々が、読書支援機器や様々なバリアフリー図書を利用して読書に親しむことができるよう、公立図書館等にデイジー図書再生機器及びバリアフリー図書セットの貸出体制を整備し、広く県民の皆様体験していただくことで、様々な障がいの方に利用いただけるよう取組をすすめる。

#### 3 読書を支援する環境の充実と人材の養成

##### 公立図書館等職員研修

視覚障がい者等が身近な地域の図書館を利用しやすい環境づくりを図るため、公立図書館等職員を対象に、読書支援機器・端末機器の操作方法、障がい特性に応じた読書媒体や支援ツールの知識、サピエ図書館の利用方法等の、障がい者サービスの知識習得のための研修を行うとともに、点字図書館や公立図書館等の連携体制を構築する。

## 資料② 令和3年度事業報告

### 1 高等学校での音訳図書製作体験

実施期間：令和3年12月1日（水）～令和4年1月30日（日）

・平日：16:40～17:40 1時間 全6回

・土日：9:30～11:30 2時間 全3回 計9回（全12時間）

会場：徳島県立障がい者交流プラザ2階 視聴覚研修室等

体験者：城北高校放送部員5名

講師：視聴覚障がい者支援センター 平田 清美所長、伊澤 深雪支援員  
音訳ボランティア 笠井 省宜氏

製作図書：芥川龍之介『桃太郎』（青空文庫）

1	令和3年12月1日（水）	録音図書について	プレクストークの操作方法
2	令和3年12月3日（金）	製作時の注意点	音声表現・録音編集技術
3	令和3年12月10日（金）	録音ソフトの操作方法①	デイジー図書録音ソフト
4	令和3年12月12日（日）	録音ソフトの操作方法②	「PRS Pro」
5	令和3年12月17日（金）	録音・修正作業	1冊を5人で分担して録音
6	令和3年1月8日（土）	修正・校正作業①	自分で校正表に記入し、修正
7	令和4年1月14日（金）	修正・校正作業②	別の音訳者の分を校正、修正
8	令和4年1月19日（水）	修正・校正作業③	5人分を結合
9	令和4年1月30日（日）	最終確認、CD製作完了 講評	点字図書館利用者の方と一緒に聞き、講評していただいた。

※その他、12月24日（金）・1月7日（金）10:00～12:00の2回、「マルチメディアデイジー製作ボランティア養成講習会」（オンライン）にも参加した。



## 〈放送部員の感想〉

- 短編の本を1冊作るのに10時間以上かかって大変な作業だった。実際に視覚障がい者の方に聴いてもらえるとモチベーションがあがると思った。
- 体験するまでデイジー図書について全く知らなかった。絵も説明するなど、初めて知れて良かった。今回の経験を今後役に立てていきたい。
- デイジー図書の製作は時間がかかるし難しいと感じた。ボランティアの方が製作しており、利用者が聞き取りやすいように何度も録音し直していることなど、どれだけ大変かを知ることができた。自分たちが作った本をどれだけの人か聞いてくれるのか楽しみ。
- 自分はいつも本は目で読んでいるので、声だけとなると、読む側はどう読めばいいのか難しかった。でも、音訳作業はとても楽しかった。
- 今までは、自分が放送部として読めたらいいと思っていた。しかし、聞く人のことをきちんと考えて読むことが大切だと知ることができた。

## 〈良かった点・課題点〉

- 放送部なので、滑舌は素晴らしく、立ち上がりの音もよく聞こえる。リズムよく淡々と読むという基本的なこともきちんとできていたが、今回の作品は難しい言葉も多く、音だけの情報では伝わりにくい部分があった。読む速度が少し速かった。
- 1冊の本を一人で読むのが普通だが、5人合作にさせていただき、共同で作り上げたという達成感が得られた。
- 利用者の方に聞いてもらい、生徒はやりがいを感じることができた。
- 生徒は毎回プラザに通っていたので、プラザを身近に感じるようになった。講師の方々が優しく指導してくださったので、生徒たちも頑張ることができた。学校では得られない貴重な学びの機会となった。

## 〈今後について〉

- 製作した図書は、公立図書館等で活用していただくことを検討している。
- 次年度も、別の高校放送部に体験していただく予定。





## 2 公立図書館等における読書支援機器・バリアフリー図書の利用促進

内 容：デイジー図書再生機器等の読書支援機器の整備

(1) 公立図書館職員研修会等への貸出

(2) 公立図書館等への展示及び体験用として貸出

貸出対象：公立図書館、学校図書館、特別支援学校、福祉施設等

### 【令和3年度貸出実績】

#### (1) 研修会等への貸出

① 「第1回公立図書館等職員研修会」への貸出 (詳細は次の項目で説明)

② 「図書館サポーター養成講座④」(ひろがる読書推進事業)への貸出

日時：令和3年10月17日(日) 13:00~15:30

場所：徳島県立総合教育センター 3階 研修室1

参加：読み聞かせボランティア、教員、特別支援教育支援員等 22名

内容：「視覚障がい等のある児童生徒への読書支援」

講師：視聴覚障がい者支援センター主任支援員 三井 貴浩氏

#### 〈受講者の感想より〉

- 視覚障がい者の困りごとやサービス等全く知らず、デイジー図書やサピエ図書館など、初めてのことで大変勉強になった。点訳や音訳がボランティアで成り立っていること、私たちでもお手伝いできることがあると思った。
- 私の友人も点字図書館を利用しているが、最近は随分デジタル化されているなと思った。このような図書館があることで、目の不自由な方と本の内容について話し合えるのは楽しいことである。
- デイジー図書は、視覚障がい者、LDの方だけでなく、高齢者、病气入院中の方、眼科の手術後(網膜剥離は術後一か月うつぶせ寝)の方、なども楽しめると思った。視覚障がい者「等」の人にもデイジー図書が広まってほしい。
- インターネット上に図書館があり、図書再生機を使って図書館とつながれること、そして全国どこでも使えることを初めて知った。プレクストークは想像していたよりもかなり大きかったが、重くはないので、視覚障がい者だけでなく、幅広く使えるようになればと思った。



## (2) 公立図書館等への貸出

### 1 4台貸出

(徳島県・徳島市・小松島市・阿南市・吉野川市・阿波市・美馬市・三好市・美波町・松茂町・東みよし町・北島町・海陽町)

## 3 公立図書館等職員研修 年2回開催

### ① 第1回

日時：令和3年11月18日(木) 10:00～15:00

場所：徳島県立障がい者交流プラザ 3階 研修室

参加：図書館職員及び市町村教委 12名

内容：午前「デイジー図書再生機器プレクストークの操作方法について」

講師：シナノケンシ株式会社 伊藤 春樹氏(オンライン)

・一人ずつ実機を用いての操作研修

・質疑応答

午後「サピエ図書館から広がる図書館サービス」

講師：全国視覚障害者情報提供施設協会 サピエ事務局長

加藤 俊和氏(オンライン)

・サピエ図書館について

・障がい者サービスに必要なこと

・質疑応答

※講義後、視聴覚障がい者支援センターの見学

※点字図書館利用者登録・プレクストークの貸出手続き

### 〈サピエ事務局長加藤氏のお話より〉

○視覚障がい者は手帳保持者で約31万人、視覚に障がいのある人は75万人、サピエ個人会員は1万9千人。目の不自由な人の中でパソコンが使える人は31万人中1割程度といわれるため、サピエ会員の割合は多いと言える。

○障がい者サービスに必要なこと・・・利用者の困りごとを知る+情報・資料とその活用を知る、図書館側から広報を工夫する(プッシュ型支援)

○当事者は自分からはなかなか発言しない。家族や支援者などへの働きかけ、支援を伝えていくことが大事。



## ②第2回

日時：令和4年2月4日（木）10:00～15:00

場所：徳島県立21世紀館イベントホール（会場＋オンライン）

参加：図書館職員、市町村教委、大学・高校図書館職員等 25名

内容：午前の部

テーマ「点字図書館と公立図書館等の連携について」

### (1)事例発表

- ・「徳島県立図書館における障がい者サービスの取組み」  
徳島県立図書館資料・児童担当課長補佐 中火 保江氏
- ・「徳島市立図書館における障がい者サービスの取組み」  
徳島市立図書館副館長 廣澤 貴理子氏

### (2)意見交換

進行：視聴覚障がい者支援センター 西條 美鈴氏

午後の部

### (1)講演

「鳥取県における読書バリアフリーの取組みについて  
～はーとふるサービスと今後の事業展開～」(オンライン)  
講師：鳥取県立図書館情報相談課係長 福市 信氏

### (2)サピエ図書館の利用の流れ(デモンストレーション)

担当：視聴覚障がい者支援センター 三井 貴浩氏

## 〈意見交換について〉

- 県立図書館・徳島市立図書館の障がい者サービスの取組みについての質問を皮切りに、各館において視覚障がい者だけでなく、発達障がい者等へ、どのようにサービスを提供しているか、今後どのように連携していくかの意見交換がなされた。
- 土成図書館では1月からプレクストークを体験できるよう設置開始。チラシやポスターで広報し、広く知っていただけるよう工夫している。読書バリアフリーの小学校への出前授業や図書館イベントを計画中。
- 図書館によっては地域の特別支援学校へ配本サービスを実施。リクエストをきくなど実際に利用者に関わっている。また、社会福祉協議会と連携して宅本サービスも検討中のところもある。



## その他関連事業（ひろがる読書推進事業）

### ★高校生のための音訳講習会

日時：令和3年7月23日（金・祝）

14:00～16:30

場所：あわぎんホール5階 小ホール

参加：高校放送部員 4校12名

講師：視聴覚障がい者支援センター

平田 清美氏、伊澤 深雪氏

内容：デイジー図書について

専用ソフトを使った録音体験など



---

MEMO



## 資料③ 令和4年度事業計画（案）

### 1 高等学校での音訳図書製作体験

- ・ 高校放送部1校に依頼をして実施予定
- ・ 製作した図書を公立図書館等で活用

### 2 公立図書館等における読書支援機器・バリアフリー図書の利用促進

- ・ バリアフリー図書セットの整備・貸出  
内容：点字図書、デイジー図書、マルチメディアデイジー図書等  
貸出対象：公立図書館、学校図書館、特別支援学校、福祉施設等
- ・ ブックリストの作成
- ・ デイジー図書再生機器等の貸出も継続
- ・ 公立図書館等へ巡回し、デイジー図書再生機器等の操作説明

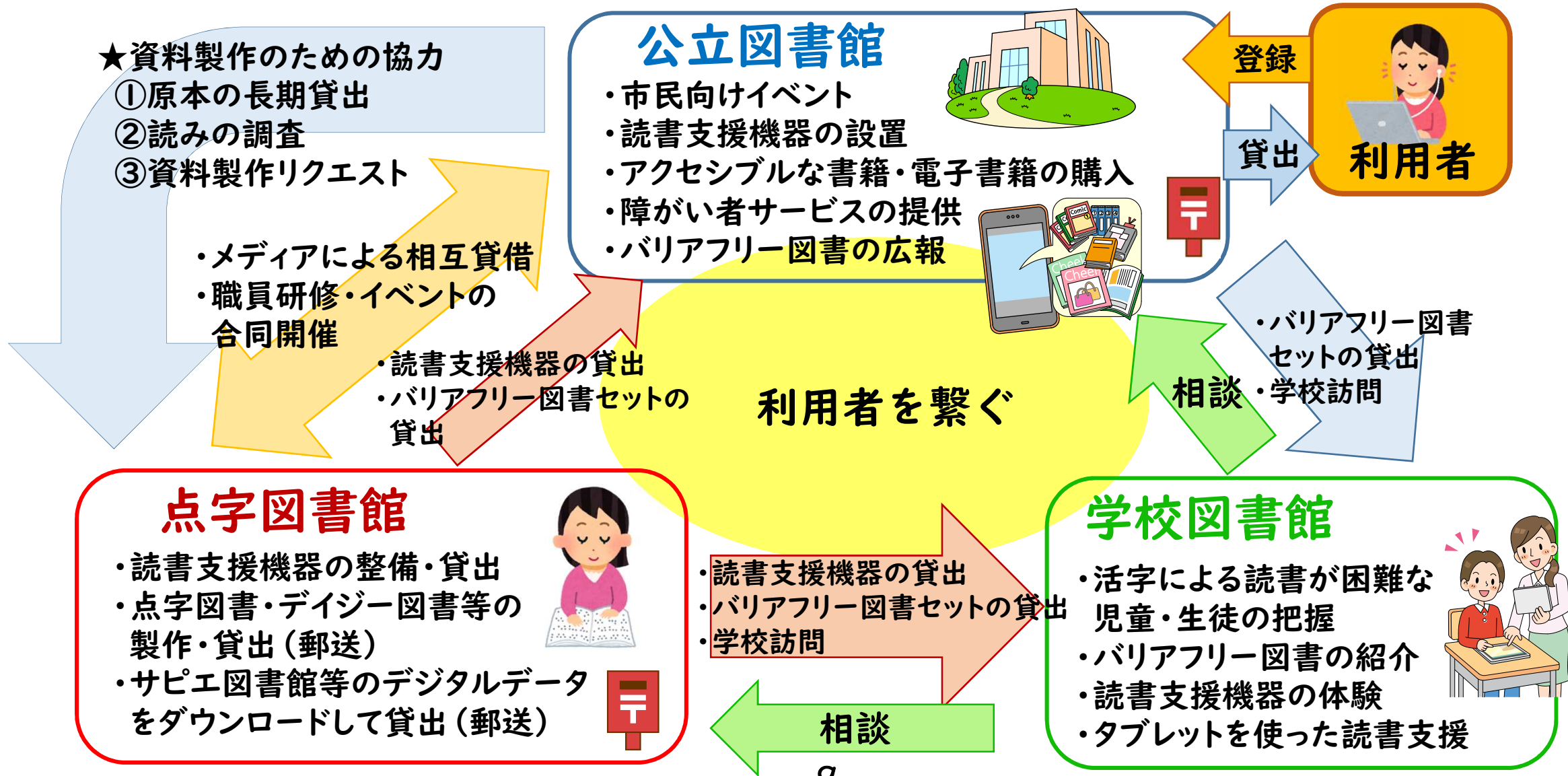
※バリアフリー図書セットの貸出についてポスター・チラシを作成し、周知に努める。

### 3 公立図書館等職員研修

- ・ 年2回実施予定
- ・ 1回目：サピエ図書館の利用の仕方について、実習を主とした研修
- ・ 2回目：視覚障がい者等利用者の方による講演と、意見交換

# 資料④

# 点字図書館と公立図書館等との連携について



## その他読書バリアフリー推進について意見交換

